

# 温暖化防止

# ストリート

街角

道

KIKO NETWORK 気候ネットワーク

第16号  
2005.11.1

## 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

## 気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

## 目次

- ・用語解説「省エネルギー法」…… P.1
- ・団体紹介「京都・水と緑をまもる連絡会」・P.2
- ・温暖化の影響・こんなことできる…… P.3
- ・自治体の計画・条例策定支援・本の紹介・ボランティアの声…… P.4

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

## 地球温暖化に関する用語解説

### 省エネルギー法



最近、「省エネ法」という言葉を見かけることが増えてきました。省エネ法は、正式には「エネルギーの使用の合理化に関する法律」といって、省エネ推進のために1979年に制定された経済産業省所管の法律です。

この法律は、(1) テレビ、エアコン、自動車などの特定の機器の性能基準に係ること、(2) エネルギー消費量の大きい事業所への計画提出・報告の義務づけ、(3) 大規模建築物（住宅を含む）の新設・修繕時の計画の届け出の3つの分野に及んでいます。

2005年の改正で(4) 輸送事業者への対策義務と旅客部門への努力義務の要請、(5) 省エネ情報の提供促進、が加わりました。

この法律は温暖化対策と密接に関係しています。(1)の基準によって改善された機器の性能が、消費者に伝わらなければ意味がありません。そこで、効果的に情報を提供するために「省エネラベル」が始まり各地に広まりました。その取り組みが(5)の改正にもつながりました。(2)の義務によって大口事業者から提出されたデータも公開されてこそ意味のあるものになります。気候ネットワークの情報開示請求と分析によって、排出の実態把握も進みました。

情報を公開するさらなる制度・体制の整備も必要ですし、基準や義務による成果を具体的に活用していくことも重要です。

京都で活動している「京都・水と緑をまもる連絡会」の紹介です。佐々木さんから紹介いただきました。



佐々木 佳織さん

京都盆地は東山、西山、北山の三山に囲まれている。三山と盆地を流れる鴨川の景色は山紫水明処と称賛されてきた。東山にはお盆に精霊送りの火を焚く大文字山がある。西山は嵐山の景勝と一体をなす。北山は京の屋根といわれ、鴨川にかかる橋からの眺めは山水画を想わせる。その大文字山にゴルフ場が計画された。また、鴨川上流にはダム計画、そして西山には高速道路計画が持ち上がった。どの計画も広大な自然破壊をとまなう想像を絶するものであり、京都市民としては寝耳に水で驚愕したのは言うまでもない。

それぞれの計画阻止に京都市民は立ち上がった。大文字には、大文字山のゴルフ場計画に反対する会と大文字山のゴルフ場問題を考える会。鴨川には、鴨川ダム建設に反対する会。西山には、西山の自然と文化を守る会が発足し、計画の撤回をめざして住民運動を拡げていった。

以下は、京都・水と緑をまもる連絡会の結成総会で採択された「水と緑をまもる京都宣言」の一節です。

『今、京都の良き環境を支える『水と緑』が危機に瀕しています。(中略)』

私たちは、これまでそれぞれの地域で、それぞれの立場にたつて自然と生活環境を守り育てる運動を進めてきましたが、いまや私たちを取り巻く状況は、個々の問題に対する取り組みだけではなく、お互いが連帯し、点から面への拡がりをもった運動を展開することを必要としています。

私たちは、それぞれの運動を通して得た経験と情報を交換するとともに、相互支援をもとに個々の運動が前進することを願い、さらに『京都の水と緑をまもる』という共通の願いを実現するため連帯・共同していきます。

私たちは、住民不在・開発優先でなく、真の住民のための行政がおこなわれるよう訴えます。

私たちは、次代を担う子供たちに、清い水と

豊かな緑の京都をいつまでも、と訴えます。

そして、広く、この連帯と共同の運動に対し、理解と参加を呼び掛けます。(1989年6月16日)』

連絡会には20を超える団体が集まり、お互いの連帯を強め大企業や行政に立ち向かった。運動は猛烈な勢いで前進しゴルフ場計画、ダム計画を断念させ、高速道路予定地には、今も住民が立ちはだかっている。住民運動の連帯は、京都三山の開発を阻止しただけでなく、全国のゴルフ場計画やダム計画に反対する住民運動を励ます結果となり、バブルの崩壊と共鳴して全国で多くのゴルフ場計画は中止された。

連絡会は、1997年の地球温暖化防止京都会議に向け発足した「気候フォーラム」に囿らずも参加することになり、経験を活かしながら「自然は子孫からの預かりもの」という先人の生き方を、改めて強く意識することになった。

京都の歴史と文化を育んできた自然環境保全を訴え続け、行政にも政策変更をもとめて積極的に行動してきた。その立場から現在の状況を見るとき、より新しい活動、現代の社会システム変革の方向を模索すべき時期と考えている。

私たちは連帯・共同と相互支援の理念を堅持し、積極的な政治参加と、持続可能な自然と人間社会のあり方を追求し、行政にたいしては、情報の徹底した開示と意思形成段階からの住民参加など、真の民主的な行政を求めることを目標としている。

「水と緑をまもる2002年京都宣言」で『21世紀は食料・水・エネルギーなどをめぐる戦争の世紀になる可能性があり、いわゆるグローバリズムという名の非人道的社会を現出させる兆候があります。私たちは自らの運動を通じて広く世界の人々と共に生き、相互支援の理念を京都から訴えていこうではありませんか。』と謳いあげたところです。

# 京都・水と緑をまもる連絡会

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

京都・水と緑をまもる連絡会

〒606-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」2F 京都市市民活動総合センター内

FAX : 075-344-0465 (宛先に団体名を記載してください)

E-mail : kyo-w-g@js9.so-net.ne.jp URL : <http://www009.upp.so-net.ne.jp/kyo-w-g/welcome.htm>

# 世界各地の温暖化の影響

世界・日本各地で見られる、温暖化の兆候や影響に関する情報を掲載していきます。

## 北上する生物

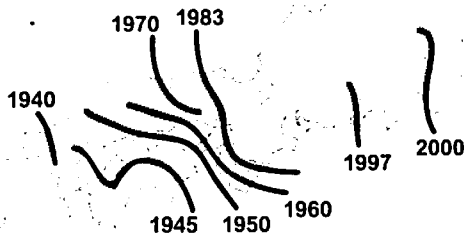
温度変化に敏感なチョウ、トンボ、セミなどの生息域が温暖化によって変化しています。昆虫の繁殖は、冬期の最低気温、エサとなる植物の変化などに左右されるため、温暖化と相まってさまざまな環境の変化が影響を及ぼしています。

ナガサキアゲハは、東南アジアの熱帯から東アジアの温帯にまで広く分布する南方系の種で、日本は本種の分布の北限に位置しています。80年代以降、このナガサキアゲハの分布域が大きく広がりを見せています。1940年代は九州や四国南部が北限だったのが、80年代から和歌山県、兵庫県などで観察され、2000年には京都でも越冬していることが確認されました。それ以降、埼玉県、山梨県など関東地方でも次々と発見されています。

こうしたナガサキアゲハの北上には、最低気温の上昇と、エサとなるミカンの栽培地の拡大が関係しているようです。

また、近年急速に生息域を拡大しているのが南方系のクマゼミです。特に、温暖化やヒートアイランドの影響などによって冬場の気温上昇が顕著な都市部で急増しているようです。京都で行われている調査でも、他の種類に比べてクマゼミの分布が拡大しているのが確認されています。近年クマゼミは、東京をはじめとする関東地域にも生息域を広げていて、植樹と相まって世代交代しながら生息していると推測されています。

また、もともとは日本に生息していなかった熱帯系の外来生物が、日本に定着する例も増えています。セアカゴケグモはオーストラリアに生息する毒グモの一種で、日本では1995年に大阪府南部で初めて見つかりました。それ以降、大阪、奈良、和歌山、愛知県で相次いで発見され、今夏には群馬県高崎でも見つかっています。これらの外来種も温暖化やヒートアイランドによる最低気温の上昇を背景に日本の環境に順応し、着実に勢力を強めているようです。



北上するナガサキアゲハの分布域  
 (「原種蝶類生体図鑑1」などより作成)

温暖化防止  
 ことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

### 今回のテーマは、電球型蛍光灯 (省エネ型電球)

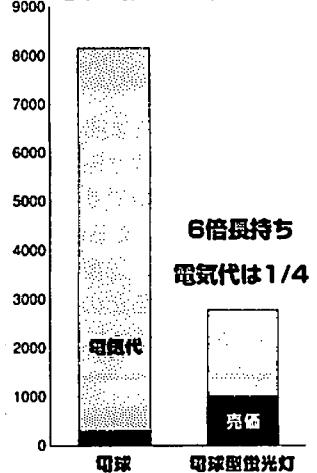
電球には、白熱灯と電球型蛍光灯の2種類があります。

白熱灯に対して電球型蛍光灯は寿命が長く、消費電力も約4分の1と大変省エネで経済的です。これまで電球型蛍光灯はなかなか明るくならないことで敬遠されることも多かったのですが、最近のものは50Hzあるいは60Hzの周波数を高周波に変換してから蛍光灯を点灯するようになったので、瞬間的に点灯するものが多くなっています。また、点灯を繰り返すと寿命が大幅に短くなったり、

さらに、温度が上昇すると明るさが下がるため密閉型の器具には使えないという欠点がありました。これも、最近のものは繰り返し点灯しても劣化しなくなり、耐熱性も向上して、密閉型の機器にも使えるようになって、これらの欠点もほぼ解消されています。

なお、ライフサイクルCO<sub>2</sub>で見ても、製造時のCO<sub>2</sub>排出量が全体の1%くらいで、使用時間が99%を占めています。そういった点からも、電球型蛍光灯に切り替えることは経済的かつ環境負荷の低減に貢献できる取り組みであると言えます。

(円) 電球と省エネ型電球の比較



※数値は、メーカー・製品により異なる

## 「自治体の条例・計画の策定支援」

気候ネットワークでは、地域レベルの温暖化対策推進の一環として、自治体における市民参加による環境関連の条例・計画やビジョンの策定、環境政策の推進組織に対する支援を行なっています。具体的には、これまでに、京都府城陽市での市民参加による環境基本条例・基本計画の策定（2000～03年）、同八幡市のパートナーシップ組織である環境市民ネットの活動（2002年～）、並びに地域省エネルギービジョンの策定（2004年）、滋賀県高島市での市民参加による環境基本条例・基本計画の策定（2005年～）、などに支援・協力しています（うち、八幡市で

の省エネビジョン策定と高島市の取り組みについては、環境自治体会議に協力という形で参加しています）。

条例や計画・ビジョンの策定時に市民参加、協働関係の構築を行なうことによって、それらの実効性が高まります。また取り組みのネットワークが拡大されたり、あらたなパートナーシップを築くことにもつながります。

地域レベルの脱温暖化型社会構築に向けて、より多くの自治体で温暖化防止に効果のある条例・計画等が策定されることを期待し、また気候ネットワークもそれらの策定に貢献できるよう取り組んでいく次第です。

Book  
本の紹介

おすすめの本の紹介です。

大宅智子（気候ネットワークインターン）

## 「地球温暖化防止の課題と展望」

COP3での採択から7年を経た今年2月、京都議定書が発効され、温暖化防止の国際条約・制度は大きな節目を迎えました。本書では、こういった地球規模での温暖化防止への取り組みの歴史、今後の課題、各国の抱える温暖化対策における問題や政策など、幅広いテーマについて非常に詳しく書かれてあります。例えば、人間環境宣言からはじまり京都議定書発効までの経緯や、京都メカニズムや資金供与メカニズムのシステムと各国に与える課題が具体的に示されており、本書を読めば初心者でも基礎から詳細まで学べることができると思います。



龍谷大学社会科学研究所 叢書

田中 則夫（編集）、増田 啓子（編集）

価格：5,460円（税込）、単行本：312ページ

出版社：法律文化社、発行年月：2005年6月

Volunteer  
ボランティアの声

気候ネットワークでは  
たくさんのボランティアが  
一緒に活動しています。  
そのボランティアからのコメント！

京都ボランティア 藤井瞳后さん

同志社大学法学部2回生の藤井です。ボランティア通信「kite」の編集を今年の春から担当しています。使ったことのないMACを使うのはかなり冒険ですが、最近はデザインなどの面白さを見出して、編集作業を楽しめるようになってきました。他には環境教育プロジェクトに携わり、児童・生徒たちと環境問題について一緒に考えています。温暖化防止のためにできる事を教える一方で、実生活では自分できてなかつたりと、温暖化防止の難しさも感じています。

## 編集後記

毎年12月に開催しているシンポジウム「市民が進める温暖化防止2005」を12月17日、18日に開催します。今年は温暖化防止教育の分科会を私が担当することになりました。気候ネットワークの事例報告もします。分科会担当は初めての経験なので、不安もありますが、チャレンジ精神で臨めばきっと成果につながると思っています。ご参加お待ちしております。

(おかげ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

URL: <http://www.kikonet.org/>

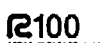
代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局長：田浦健朗

「温暖化防止・ストリート」16号  
2005年11月1日発行（隔月1日発行）  
編集・DTP：岡啓子・豊田聡介

京都事務所（本部）  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四條上る高倉ビル305  
TEL: 075-254-1011 FAX: 075-254-1012  
E-mail: [kyoto@kikonet.org](mailto:kyoto@kikonet.org)

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F  
TEL: 03-3263-9210 FAX: 03-3263-9463  
E-mail: [tokyo@kikonet.org](mailto:tokyo@kikonet.org)

※紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、風力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）  
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）